



1:13 粗布をまとって悼み悲しめ、祭司たちよ。泣き叫べ、祭壇に仕える者たちよ。私の神に仕える者たちよ、行って粗布をまとうて夜を過ごせ。穀物と注ぎのささげ物があなたがたの神の宮から退けられたからだ。

1:14 断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。長老たちとこの国に住むすべての者を、あなたがたの神、【主】の宮に集め、【主】に向かって叫び求めよ。

1:15 ああ、その日よ。【主】の日は近い。全能者による破壊の日として、その日は来る。

1:16 私たちの目の前で、食物が断たれ、私たちの神の宮から喜びも楽しみも消え失せただけではないか。

1:17 穀物の種は土の下で干からび、倉は荒れ果て、穴蔵は崩れた。穀物がしなびたからだ。

1:18 ああ、なんと家畜がうめいていることか。牛の群れはさまよう。牧場がないからだ。羊の群れも滅びる。

1:19 あなたに、【主】よ、私は呼び求めます。火が荒野の牧場を焼き尽くし、野のすべての木を炎がなめ尽くしました。

1:20 野の獣も、あなたをあえぎ求めています。水の流れが涸れ、火が荒野の牧場を焼き尽くしたからです。

「祭司」や「祭壇に仕える者」に対してさえ、主はさばきの宣告をなさいます。主との交わりという大切な働きですが、国全体が不信仰になり、その信仰の中心ともいえる部分が機能不全に陥るのです。

私たちが共同体がもしも主からの祝福を失うなどということがあるなら、それは何より礼拝という信仰の中心が機能不全に陥ることです。主との交わりこそが私たちの生命線です。私たちも罪あるものなので、主からのさばきの宣告を受けなければ

なりませんが、主はイエス様の贖いによって罪を赦してくださいます。

そのイエス様のゆえに礼拝が可能になるのです。そしてその礼拝こそが祝福の証しです。本来さばかされるべきものが、このように礼拝を許されたものとなるというのは、何と感謝なことでしょう。礼拝を何よりも大切に、また主に喜ばれる礼拝のために最善を尽くしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

